

「ライブ観戦つちたの独り言」

2年連続都市対抗野球出場の夢は消えた//

第四代表枠を目指して東京ガス戦 2対5で敗戦

2年連続7回目の都市対抗野球出場を目指したが第四代表決定準決勝、強敵東京ガスに2対5で敗戦東京ドームの道は消え去った

1回表2死2塁・1塁のチャンスを生かせず。2回表先頭打者6番森選手右・中間を破る三塁打で再度チャンスに7番岸本選手のセカンドゴロの間に森選手先取点のホームイン幸先よし。4回表1死1塁から森選手レフト前にクリーンヒットで1死2・1塁のチャンスを造るも後続が三振・内野ゴロと打ちとられチャンスを潰す。

5～8回3安打とチャンスなし。9回表森選手今日4本目のヒットで出塁、次打者セカンドゴロの併殺打、8番新城選手センター前ヒット粘りを見せ2死1塁9番に代打、道端選手左中間に見事二塁打、一挙新城選手1塁からの好走で意地の2点目をもぎ取るもここまで後続代打木田選手大きなライトフライでゲームセット。

東京ガスは1点を追う3回裏1死後3連打と儀飛で逆転の2点。5回2安打で追加点、3対1。7回にも2死ご3連打されダメ押しの2点追加で1対5.で劣勢。

先発三宮投手は好投するも4・1/3回3自責点、5回途中から北浜投手2・1/3回2自責点と頑張り、3番手小玉投手も1・1/3回自責点0.

4試合とも投手陣は頑張った。17失点12自責点

打撃陣鷲宮製作所戦はチャンスを生かしたが以降の試合は再三のチャンスを打ちとられ得点に結びつくことが出来なかったのが敗退の要因と考えられ。

26安打12得点は安打数の割に得点が少ないのはチャンスに執念の一打が少なかった。チャンスを生かせる打撃を期待する。

つたないライブ観戦記にお付き合いいただきありがとうございました。

2020年9月30日

土田唯雄